

第 58 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会

奈良県立医科大学 塚本真治 石田由佳子

2025 年 7 月 17～18 日に、奈良県コンベンションセンターにおいて、第 58 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会（奈良県立医科大学、朴木寛弥会長）が開催されました。本学術集会のテーマは、「呼吸同時次世代につなぐサイエンス・パッション・アート」です。「呼吸同時」は、師匠と弟子の呼吸が一致するときに悟りが得られるまたとない好機となるという意味で、学術交流の場を通じて、知識と技とともに医学への情熱を次の世代につなごうという思いが込められているそうです。

参加者は整形外科医、小児科医、臨床心理士、理学療法士など多岐にわたっており、脊椎転移に関するシンポジウムでは、早期発見・早期治療を目標として院内の集学的診療体制をどのように構築していくかについて活発な討議が行われていました。症例検討会ではうちの配布があり、診断や治療に関する質問にうちわを用いて賛成・反対を表明するといった面白い手法がとられていました。コングレスバッグには会長のイラストが使用されていましたが、大人気ですぐに品切



症例検討会で配布されたうちわ

「第 58 回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会」看板

れになっていました。

骨・軟部腫瘍は希少疾患ですが幅広い領域のがん診療と関連しており、リハビリテーション治療との関わりも深い疾患です。がんの早期発見を目指し連携して診療することの難しさと重要性を改めて感じた学術集会でした。

第 7 回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 函館

国立精神・神経医療研究センター病院 原 貴敏

第 7 回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 函館は、2025 年 7 月 17～18 日に大沼国際セミナーハウスにて医療法人雄心会理事長の伊藤丈雄大会長のもと、大会テーマに「自然との融合」を掲げ、開催されました。会場は大沼国立公園内にあり、大会長が「最新の技術と自然環境との調和がもたらす新たな治療の可能性について探求する」と述べられたように、それにふさわしい環境でした。学術大会では、最新のニューロモデレーションや脳波に基づくリハビリテーション治療に寄与する基盤研究、各種非侵襲的磁気刺激療法に関する内容、また、森林浴・森林セラピー®に関する講演など、スティミュレーションセラピー学会ならではの多彩で活発な講演と発表があり、討議も大いに盛り上がりました。2 日間で医師 49 名、関連専門職 64 名（総数 113 名）が参加登録した学術大会は成功裡に閉会しました。第 8 回学術大会は



「第 7 回日本スティミュレーションセラピー学会学術大会 in 函館」会場

2026 年 10 月 2～3 日に岡本隆嗣大会長（西広島リハビリテーション病院病院長）のもと「原点から拓く治療の未来」をテーマに広島市で開催されますので、是非ともご参加ください。